令和６年度 研修病院アンケート

【本学卒業生に対する研修先病院からの評価】

（2025 年 2～3 月実施）

【対象研修病院】：45 施設

【評価対象研修医】：令和５年度卒業生（研修医１年）　92 名

【調査内容】:各項目について､病院側が｢どの程度の能力備えていると思われますか｣を４段階（｢十分に備えている｣｢ある程度備えている｣｢あまり備えていない｣｢全く備えていない｣）で回答している。

【回答数】：33 施設（回答率：73.3%）
　　：69 名分（回答率：75.0%）

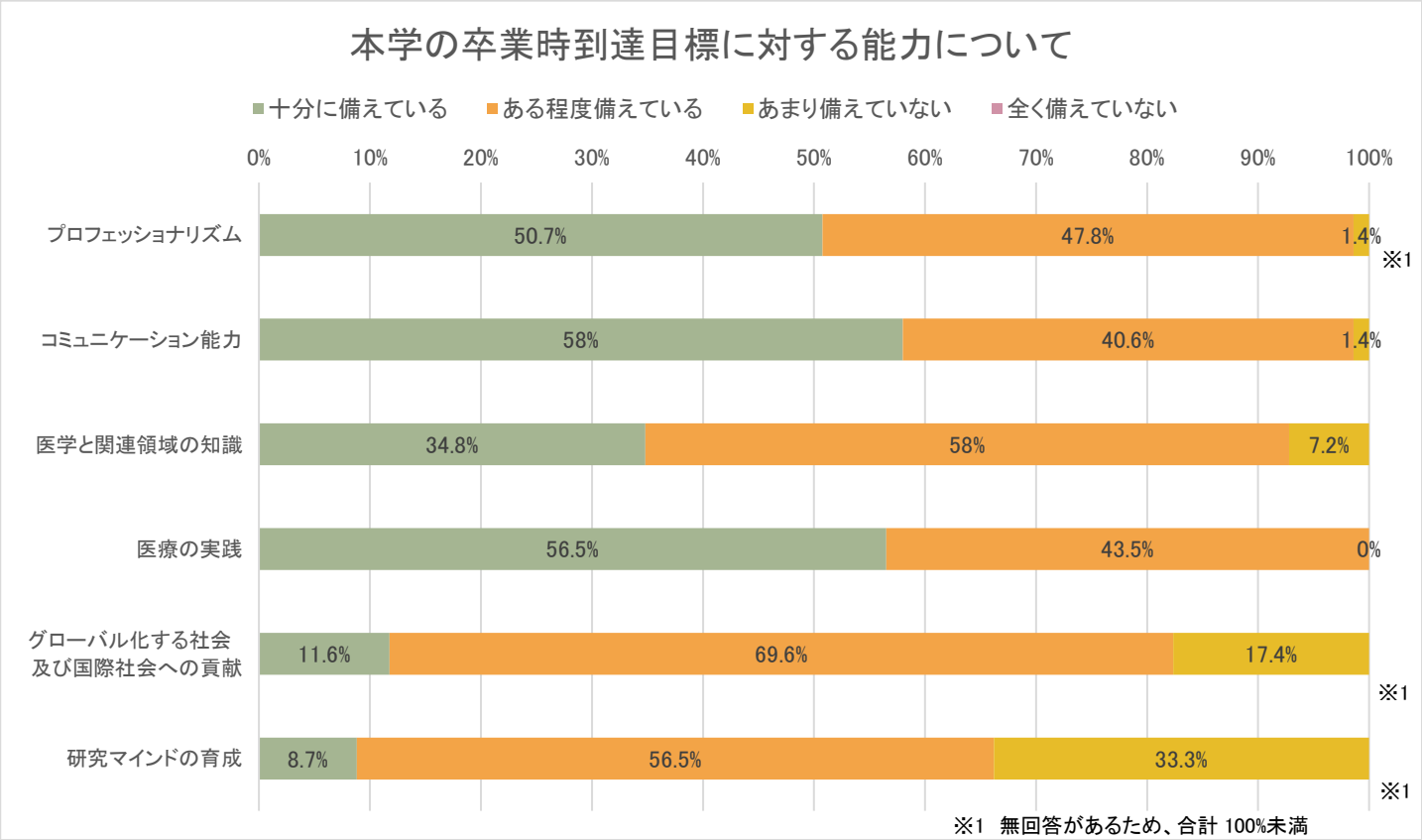
【分析結果】

1. プロフェッショナリズム
   「十分に備えている」「ある程度備えている」の合計が 98.5%に達し、非常に高い評価を受けている。
2. コミュニケーション能力
   円滑な対人関係構築などの適応力について高く評価されている。
3. 医学・関連領域の知識
   「ある程度備えている」が 58.0%を占める一方で、「あまり備えていない」「全く備えていない」も一定数見られた。知識の定着においてばらつきがあると捉えられる。
4. 医療の実践
   臨床現場において必要とされる実践的能力について高く評価されている。本学の実習・臨床教育の成果が反映されていると考えられる。
5. グローバル化する地域社会及び国際社会への貢献
   「十分に備えている」が 11.6%と低く、「あまり備えていない」「全く備えていない」の合計が約 19%に達し、一定の理解や意識は有しているが、積極的に行動し社会的に貢献する水準には至っていない可能性があると読み取れる。
6. 研究マインドの育成
   「十分に備えている」が 8.7%と最も低く、「あまり備えていない」が 33.3%と高い。臨床研究や学術的探究心の育成においては、十分な成果が得られていない状況が伺える。

【まとめ】

本学卒業生は、医師としての基本姿勢、コミュニケーション能力、臨床実践力において、研修病院から高い評価を得ており、一定の教育効果が現れていることが伺える。一方で、｢医学知識の応用力｣｢地域・国際社会への貢献意識｣｢研究マインド｣など、より発展的な能力については、まだ十分ではない傾向が見受けられた。

研修病院アンケート
（令和 5(2023)年度卒業生対象）

令和6（2024）年度実施

本学が設定する６つの卒業時到達目標について、本学卒業生が現在どの程度の能力を備えていると思われますか。